



とても嬉しかったのです。とにかくとても嬉しかったのです。これが、北京理工大学の学生のみなさんが「私にとっての友愛とは」というタイトルで書いてくださった感想文を読んだ私の素直な気持ちでした。

真面目に日本語を学んでいる姿が想像できたからでした。

日本と中国の政治的な環境は、必ずしも良好とは言えません。そして、その原因はどちらかと言えば、日本側が作っていると言わざるを得ません。このような時に、否、このような時だからこそ、中国で日本語を勉強してくれること自体が嬉しいことですし、しかもみなさんが、日本語を日本人と変わらないほど使いこなしていることに、非常に感動をいたしましたのです。多分、日本では中国語を

学ぶ学生数が減少しているのではないかと思いますし、中国語を上手に使いこなせる人はかなり少なくなっていると思います。

日本は中国に、北京理工大学の学生のみなさんに学ばせてほしい。

その意味では、感想文を書いてくださったすべての学生さんに満点を上げたい思いましたが、優秀を決めなければならぬということに困りました。そこで私は、日本語としては若干無理がある表現を減点する方法で採点をいたしました。結果として多くの学生さんが高得点となり、中でも優秀な受賞者のみなさんは特別として、感想文を書いてくださった全員を選

にするようにいたしました。

私の採点が甘いのではないかとと思われるでしょうが、では実際に私が北京理工大学の学生さんのような作文を他言語で書けるかと問われると、首を振らざるを得ませんでした。決して甘く採点した訳ではないのです。

内容を拝見しますと、一位となった徐嘉熾さんの作文のように、多くのみなさんが川手常務理事など日本友愛協会の講義に、真剣に耳を傾けてくれたことがよく分かりました。また、友愛を単なる机上の概念で捉えるのではなく、自分の経験から理解しようとする姿勢が多く見られました。中



には、人と人との友愛を超えて、自然の生き物や植物との友愛を書いた作文もありました。そうです、自然といかに共生していくかは、人間が抱えている地球上の最大のテーマと言えるでしょう。

私は感想文を書いた学生さんたちが、これからの長い人生を通じて、自ら描いた友愛の理念を活かしてくださることを大いに期待したいと思います。

では、それで良い。まさに一期一会の心境でした。

また講話中、一人一人の輝く瞳をしっかりと見詰め、この中の誰が解ってくれるのか、誰でも良い、私に与えられたチャンスをとんと活かしたい、そう願いました。今でもあの日の真剣な個々の眼差しは忘れられません。

日本の書家、相田みつをさんの書に「その時の出会いが人生を根底から変えることがある」という詞があります。その言葉通り素晴らしい皆さんとの出会いは、私の友愛観に強い自信と感動を与えてくれました。

私は六十三年前友愛を知り、友愛を行動に活かすことを念頭に今日に至りましたが、今思うに、北京でのあなたたちとの出会いは友愛を信じ、継続してきた我が人生最高の喜びであり、至福のひと時でした。そして私にとって友愛とは天命であると痛感した次第です。本当に有難うございました。尚、感想文の選考につきましましては各委員とも大変ご苦労された結果ですので、ご高配の程お願い申し上げます。

友愛と中国の関係は一九七四年以来四十二年になり



講演会を終えて、講師の川手常務理事を囲んで記念撮影。川手常務理事の手には、学生の皆さんから贈られた花束が。圧倒的に女子学生が多い。最後列一列が男子学生

▼東日本大震災から五年が経つ。筆者の勤める大学でも、一つの節目として関連の行事が続く。震災後に新設された災害科学国際研究所をはじめ、関連分野の先生方は取材対応などもあり多忙を極めているそう。▼いくつかの自治体で仮設住宅の入居期限が打ち切られるように、五年という節目は「風化」の始まりかもしれない。直接の当事者が震災を日々意識する環境に置かれたままの一方、メディアや部外者の関心は今後ぐっと低下することだろう。▼被災自治体や被災者の中でも、色分けがはつきりしてきたように感じる。かつて地域の中心だった土地で、盛り土は今なお途上であり、寒空の中で重機の音だけが響く。このかさ上げが完成した時、一体どのぐらいの人が戻ってくるのだろうか、と皆が半信半疑のまま工事が続いている。他方で、震災後に流入が一割近くにものもなかった。▼阪神大震災の経験が今回の震災復興でも数多く活かされているように、首都直下型地震や南海トラフ地震のような大震災が起きてしまった場合に備えて対策が練られ「事前復興」という取り組みも進んでいる。もつとも、大震災時には「想定外」の事態が無数に起こるということも今回の教訓ではあるが、▼多くの地域が喘ぐ過疎化や少子高齢化という問題が震災によって一気に加速した結果、東北地方は日本の将来像を考える上での社会実験の場になった、とも評される。震災自体の風化はやむを得ないことだろうが、現在進行中の「復興」を不断に問い直すことは未来へ続く重要な営みである。

(ヒゲ)



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所
(一財)日本友愛協会

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188
FAX:03-5684-3186
E-mail:yuai@yuaiyoukai.com
http://yuaiyoukai.com

発行人：川手正一郎
編集人：

隔月1回 10日発行

年会費
2,000円

感想文の選考にあたって

川手正一郎

感想文を読ませていただき、皆さんが日本語を深く理解されていること、語彙の豊かさや達者な日本語力に思わず感動し襟を正しました。

そして中国の若い人たちの進取の気象に心を打たれるとともに、私自身多くのことを学ばせていただきました。感想文を送って下さいました皆様は心から御礼申し上げます。

この度の友愛講話について、私は単に友愛という思想を伝えることでなく、私が過去培った友愛や中国に対する「私の思い」を、中国の若い人たちに少しでも理解していただくことを目的に、教室へ入りました。

私の心が中国の人たちにどのように伝わるのか、私の講話が理解されるのか若干の不安もありました。しかし聴講してくださる学生さんの中で、たとえ一人でも理解して下さい方が居れば、それだけで十分です。

ですが、このような機会を与えてくださいました北京理工大学と全青連の関係各位には、深甚なる敬意と謝意を表します。

日中友好は地道でひたむきな諸交流により徐々に浸透して行く、北京理工大学での友愛の講話もハチドリの一歩と見なすべし。

しかし、感想文を読ませていただき、本気になれば道は拓ける。

「事は小なりと雖も為さざれば成らず(荀子)」

多忙な時間を裂き、聴講していただきました北京理工大学の皆さんが、折に触れ友愛を思い出し行動に活かしていただければ望外の幸です。改めまして聴講いただきました北京理工大学の方々には感謝と御礼を申し上げます。

友愛時評

▼東日本大震災から五年が経つ。筆者の勤める大学でも、一つの節目として関連の行事が続く。震災後に新設された災害科学国際研究所をはじめ、関連分野の先生方は取材対応などもあり多忙を極めているそう。▼いくつかの自治体で仮設住宅の入居期限が打ち切られるように、五年という節目は「風化」の始まりかもしれない。直接の当事者が震災を日々意識する環境に置かれたままの一方、メディアや部外者の関心は今後ぐっと低下することだろう。▼被災自治体や被災者の中でも、色分けがはつきりしてきたように感じる。かつて地域の中心だった土地で、盛り土は今なお途上であり、寒空の中で重機の音だけが響く。このかさ上げが完成した時、一体どのぐらいの人が戻ってくるのだろうか、と皆が半信半疑のまま工事が続いている。他方で、震災後に流入が一割近くにものもなかった。▼阪神大震災の経験が今回の震災復興でも数多く活かされているように、首都直下型地震や南海トラフ地震のような大震災が起きてしまった場合に備えて対策が練られ「事前復興」という取り組みも進んでいる。もつとも、大震災時には「想定外」の事態が無数に起こるということも今回の教訓ではあるが、▼多くの地域が喘ぐ過疎化や少子高齢化という問題が震災によって一気に加速した結果、東北地方は日本の将来像を考える上での社会実験の場になった、とも評される。震災自体の風化はやむを得ないことだろうが、現在進行中の「復興」を不断に問い直すことは未来へ続く重要な営みである。

紙上発表会

「私にとって友愛とは」

受賞作品一挙掲載 北京理工大学日本語学科学生

第一位

徐嘉熠（四年）

「友愛は難しい」と、初めて講座で「友愛」という言葉を聞いた時そう思った。

人々の信頼関係が弱い今の世の中、転んだお年寄りが助けてくれた人を逆に罪に陥れて賠償を請求するという話をよく耳にするし、

子供や女性の誘拐の問題も深刻になっている。このような背景の中、知らない人に対して友愛を持つのは少し無理ではないかと思っ

た。知らない人どころか、友達のあいだでもけんかする時がある。そして、マクロの視点から見ると、集団、あるいは国家の

利益と個人の利益とのあいだに矛盾があるとき、友愛の方法は何だろうという

る考えた結果、冒頭の一言を思った。

しかし、今年川手さんの講演を聞いて、再び「友愛」について考えるようになった。もっとも印象深いのは

川手さんが「自由は弱肉強食の放埒に陥りやすく、平



等は「出る釘は打たれる」式の悪平等に墮落しかねない。その両者のゆきすぎを克服するのが友愛である。」とおっしゃった言葉である。つまり、友愛とは仲良くすることではなく、世の中にある矛盾の両者の行き過ぎを正すことではないかと思うようになった。

たとえば、人間自身にかかわる友愛から見ると、理性と感情を両方とも利用して、最後の判断を愛に任せることだと思う。人がひたすら感情に支配されると、動物と変わらない。まったく理性に任せるとロボットのようなものになる。友愛は理性と感情の行き過ぎを正す。具体的に、理性で人の需要を察し、感情で人の気持ちを理解しようとする。そして友愛は理性と感情を利用する上で、人に対して尊重と思いやりの気持ちを持つ。

しかし言うは簡単だが実際に容易ではない。一番手取り早いのは弱い人を助けることだが、それは本当の友愛ではないと思う。助けることが人を傷つけることもある。たとえば、映画『最強のふたり』の中、頸椎損傷で体が不自由な主人公が一人の黒人の介護者を雇った。その黒人を選んだ理由は「彼は常に当たり前のように私に携帯電話を渡すからだ。つまり私が体

の不自由なことを忘れてい

る。」ということである。主人公を患者として慎重に介護する人より、その黒人の介護者は友愛を果たしたと思う。

人はそれぞれ違う。その一人一人の個性を尊重し、また一人の人間として自分を知り、自分で運命を決め、責任を取ることから、友愛の形が見える。それは人間と人間の関係だけではなく、国と国の、また人間と周りの環境との関係でもあるのではないかと考える。

今、私にとっての友愛とは選択するときの判断基準であり、たゆまず努力して近づくべき理想の精神でもある。

私は今も友愛は難しいと思うが、それを実行していきたい。一人でも多く友愛を実行し、友愛の世界が見られるよう願っている。

……………

……………

……………

第二位

李雅婕（四年）

友愛とは人それぞれ異なる理解があるだろうが、私にとっての友愛は二人の祖父との話から見いだした。今年八〇代である私の母方の祖父は昔、兵士であった。彼の心に深く傷をつけたその戦争で、私が大学で日本語を専門とすることがなかなか納得できない。「日本語を専門としたら、

仕事が見つかると？」という声で、誰かわしの家のドアを叩いたんだ。一人で家にいたわしはあまりにも怖くてドアを開けなかった。向こうの人はそのままドンドンって十分ほど続けたんだ。幸いにわしのお母さんが戻ってきた。こわごわお母さんはドアを開けると、一人の日本人が外に立っていたんだ。」

その日から、その日本人は毎日おじいさんの家に来て、言葉が通じないにもかかわらずおじいさんとしやべっていたらしい。それでおじいさんが数字を数えることが出来た。時々その人は給をくれることもあったそうである。実に面白い人だったとおじいさんは言った。

「日本人はね、全部悪い人でもないよ。ほら、こういう人もいるじゃないか。」とおじいさんは言った。

確かにその時、日本は戦争の代わりにこのように平和に一衣帯水の隣国である中国と交流をして来れば、今の中日関係はまた別の光景になったのであろう。

二人が私に伝えたのは、単なる記憶だけではなく、話の裏に込めていた私に対する愛も伝えてきた。私の進路を心配している祖父も、自分のエピソードを私とシェアするおじいさんも、異国にいた日本人も、愛を以て自分が実際に経験

したことを人とシェアしている。このような交流が多ければ多い程人を尊重する、理解する、互いに助け合うことがしやすくなる。友愛の社会がこれで見えるのではないか。

……………

……………

……………



……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

第二位

毛嘉怡（三年）

子供の頃から、一年に一度の運動会が好きで、始まるずっと前から楽しみにしていました。

運動会によく「友情第一、試合第二」というスローガンが掲げられました。幼くして単純な子供にも、勝つことが大切ではなくて、相手に対して友愛の精神を持つことが大事だということ

は毎日おじいさんの家に来て、言葉が通じないにもかかわらずおじいさんとしやべっていたらしい。それでおじいさんが数字を数えることが出来た。時々その人は給をくれることもあったそうである。実に面白い人だったとおじいさんは言った。

「日本人はね、全部悪い人でもないよ。ほら、こういう人もいるじゃないか。」とおじいさんは言った。

確かにその時、日本は戦争の代わりにこのように平和に一衣帯水の隣国である中国と交流をして来れば、今の中日関係はまた別の光景になったのであろう。

二人が私に伝えたのは、単なる記憶だけではなく、話の裏に込めていた私に対する愛も伝えてきた。私の進路を心配している祖父も、自分のエピソードを私とシェアするおじいさんも、異国にいた日本人も、愛を以て自分が実際に経験

したことを人とシェアしている。このような交流が多ければ多い程人を尊重する、理解する、互いに助け合うことがしやすくなる。友愛の社会がこれで見えるのではないか。

……………

……………

……………

*ここに掲載の作品の他、全ての作品を纏めた『私にとって友愛とは』の小冊子を作成いたしました。ご希望の方は事務局までお申し込みください。日本語版・中国語版双方をご用意しております。また、ゼミ・合宿などの機会を利用して広く配布をご希望の方は、その旨お申し出ください。

あなたと夢を、ごいっしょに。

PanaHome

ビジネスを拡大させる大空間。

事業向け多層階住宅
VieunoPRO
＜ビューノ・プロ＞

パナホームは工業化住宅で最高*の7階建まで建築可能。独自の「ウルトラNS構法」により、荷重がかかる低層階にも大空間がつけれます。

※2015年12月パナホーム調べ。

パナホーム株式会社 〒560-8543 大阪府豊中市新千里西町1丁目1番4号 www.panahome.jp



Break Through



NISSEY DELICA CORP.

があります。私は昨年、週に一回そこで二年生の授業の手伝いをしました。

事前に教材を準備するのは大変でしたが、子供達の笑顔に接するのは楽しいことでした。

私のクラスに知的障害の子供がいました。ある時、その子供に質問をすると、

彼女の答えを聞いた周りの生徒達は、馬鹿にするように囁し立て、彼女は泣き出してしまいました。私はただ、その生徒達の嘲笑を制止するのがやっとでした。

後で、担任の先生に相談しましたが、先生も苦勞しているようでした。私はとても悲しい気持ちになりました。この後、彼女は手先がとても器用で、上手に千羽鶴を折ることを知り、そのことをみんなの前で褒めてあげました。そして、クラス

.....

第三位

張小潔(四年)

子供の頃、私たちは先生や、親に団結、友愛を教育された。その時の友愛は主に友達に対する愛情である。喧嘩は許さず、いい事を一緒に享受して、お互いに助けること。これは人間同士にとって当たり前のことだと思う。ではもし、相手が植物や動物なら、どうなるか。私にとっての友愛

は人間はもちろん、もっと強調したいのは植物や動物など命があるものに対する愛情である。

幼い時のある日のこと。母が作ったご飯が多すぎたので、庭の予備木材を集めた一角にそれを置いた。しばらくして、母はご飯の方



向を指さしながら小さな声で私に「見てごらん」と言った。見ると、一匹の白くて、小さいネズミがご飯を食べていた。ふわふわした口と一緒に動いた髭、白くて粘り気のあるご飯をつけていたピンクの鼻、太くてふんわりした体。圧倒的な可愛さで、私はすぐそのネズミを愛するようになった。もっと近くに移動し、ちゃんと見たかったが、私の存在を発見したネズミちゃんはずぐ逃げてしまった。太い体なのに、逃げる時は不思議にすばしこい。

なぜ逃げるのかと自問したが答えが出ない。ネズミちゃんと親しくなれなくて、本当に残念だと思っている私の顔を見て、母は「動物はほとんど人間が怖いと思うよ、だから、もしちゃんと見たいなら、動物にあな

たの存在を分らないようにしなさい」と言った。子供の私は分からなくて、動物と人類は友達になれるはずだ、なぜ動物は人間が怖いと思うのと思っていた。

小学生になり、私はやっと分かってくる。学校の中には鮮やかな花がいっぱいで、言葉では表せないほど美しい。放課後、同じクラス

の梁さんは密かに赤いバラの花を摘みたがるのだ。まだ子供だから、力不足で、

一気にバラを摘もうとしたができなかった。一部の花弁を落とされる赤いバラは命をかけても枝から離れたくないと言わんばかりだった。だが、梁さんは摘み取ろうとする。バラはそれでも敵に屈服しなかった。その時、私は胸がつぶれるほど心を痛み、自分がその赤いバラみたいな感じがした。そして、初めてクラスメートと喧嘩した。その赤いバラのために。

植物も動物も話せないの

で、自分の気持ちを言葉で私たちが人間に伝えられないが、実際に彼らは他の方法で自分の考えと情緒を表すのだ。例えば、美味しいご飯を放棄しても逃げたいネズミちゃんと、命をかけても反抗したい赤いバラ。もしあなたが自分の心で見れば、きつと赤いバラの涙が見える。

私にとっての友愛は自分の心でこの世界を感じることに。そして、愛すること。身近の人の心底の声を聞く。そして、命がある一切の物に対して愛情を持つ。命は美しくて、奇跡的なもので同時に脆弱なものであるの

で、大切にしなければならぬ。人間の命だけではなく、道端の白樺、山坂の小さな花、キャンパスの野良猫、軒の下に休んでいる蝶々、川

のそばで遊んでいる蟹など数え切れない命がある。こんなにも素晴らしい世界、こんなにも多様な生命に私たちは友愛の気

持ちを持つ。そして、もっと美しい明日を作ろう。

.....

第三位

賈茹楠(四年)

初めて「友愛」という言葉を見た時、ただ単純の兄弟の愛であるかと思ひ、その中で含まれた深い意味が理解しなかった。しかし、年をとりつつあり、交流範囲が広まったことに伴って、「友愛」にある美しさと広さを実感してきたのである。

「友愛」は「友」と「愛」、二つの文字によって構成された。まずは「友」、つまり「友達」の「友」である。

真の友愛精神は、身近な人に留まらず、他の人、且つ世界全人類を「友」にし愛し合うことは即ち「博愛」なのである。昔より、中国には「吾が老を老として、以て人の老に及ぼし、吾が幼を幼として、以て人の幼に及ぼさば、天下は掌にめぐらすべし」という名言があり、他の人も自分の親、自分の子、及び自分の兄弟として扱えば、博愛の精神が他人に影響を与え、やがてみんなが助け合う境界へと辿り着くということは、古代の聖人が望む理想の世界へ辿り着く。また、キリスト教には似ている教訓がある

そうである。「友愛」は一人に限らず、民族間の付き合いにも適用すると思う。愛を惜しげなく他人に伝わり、他の民族の人を自分との血の繋がりがあ

るようにつき合えば、戦争などの悲しい争いが避けられ、世界は必ず愛が溢れるであ

ろう。

「博愛」を含めている「友愛」の精神は、簡単になれるものではないと考える。

私に言わせれば、一番重要なのは人と人の相互尊重なのである。世界中の七〇億の人々は、完全に同じであることは決してないゆえ、人々間の違い、つまり個性というものがある。尊重すべき対象は他の人の自分と異なるところである。中国の元総理・周恩来により「小異を残し大同につく」という主張がある。個性を尊重することを付き合

いの前提とされ、両方とも平等的な位置につけ、この上には話し合える可能性がある。違いが避けられないからには、その違いがあることを認め、双方にある共同のところを探し出すことが賢い

付き合い方であると思われる。尊重の土台を築き上げるこそ、相互理解でき、相互愛し合うことができるのである。

また、行動の角度から見れば、助け合うことは友愛精神を伝える有力の手段である。愛があり、他人にその愛を感じさせるため、他人を助けることを通じて愛をこめた心の温度を他人に知らせる。電車の中で体の不自由な人に座を譲るだ



み物を買うだの、このようなさやかなことこそ、積み上げるうちに、必ず社会に大きな影響を及ぼすであろう。助けられた方はその善意を受け止め、自分の心の中に残る暖かさを他人に伝える。このようになれば、愛を広げる循環になり、みんなは他人を助けることを誇りである思うようになり、やがていわゆる友愛、そして大同の世界になると確信している。

遠く昔の飛鳥時代、聖徳太子は「和を以て貴しとなす」を基準とし、「和」「即ち均衡」と愛は日本人の基本的な精神の一つであると感じ、「友愛」の精神はその継承であると思う。友愛と博愛は柔軟な力であるが、これは武力などに敵わない力であると思われる。

一つ一つ小さな星が空に集まれば美しい銀河となり、小川が集まればやがて大河になる。友愛の精神もこのように、世界の小さな善意と愛を集め、やがて愛が溢れる世界になると、私は強く信じている。

.....

第三位

張亜男(四年)

「友愛」という言葉を聞いて人は、どんなことを思い浮かべるのだろうか。辞書の中には「兄弟または友人間の情愛」と説明しているが、私の心の中には、言葉より、具体的な場面が先に生き生きと浮かんできた。

子供の頃、横断歩道で困っていた私を見て、手を引いてくれた通りすがりのお姉ちゃん。冬のある日、校

門の売店で暖かい焼きいもを買って、皆に配った小学校のクラスメート。旅行中楽しく話し合った観光客の外国人青年。道端でお腹が痛くてしゃがみ込んだ女の子を寮まで送った友達。このような場面はいつも私の心を暖かくさせる。年齢、男女、民族、国籍に関わらず、人と人はお互いに理解し、お互いに信頼し、自然に親しみを表すことこそは「友愛」と言えるだろう。

こういうように他人を愛する気持ちはいつから生まれたのだろうか。まだ幼かった私たちはおてんばで、蟻の穴を掘ったり、水をその穴に注ぎ込んだりして、気にもかけずにいろいろな事をしたのに、いつから蟻も命を持つているものだと分かったのだろうか。

人間はまだ赤ちゃんの時、世界中で自分しか見えないという言い方がある。欲求が満足されたら笑う。欲求が満足されなかったら、必死に泣く。だが体の成長にともなうて、頭も心も成長してゆくに連れて、他人も自分と同じように思想や感情があるものだ

とだんだん分かってくる。だから、他人が笑う時自分も嬉しく感じ、他人が泣く時自分も悲しく感じる。こういうふう



四面につづく



第二六回日本ドイツ歌曲コンクールにて最高位を頂き、ウィーン短期留学の副賞も頂けること、大変嬉しく光榮に思っております。私は今回の短期留学を通して、真の芸術を探って行きたいと思っております。今までずっと日本におりましたから、ヨーロッパの音楽、芸術、文化は間接的にしか学べておりません。音楽の都と呼ばれるウィーンの街を周り、現地の人達と接し、その街に溢れる文化を、音を、香りまでも含めてたくさん吸収したいと思っております。

また、留学の中で行われる演奏会ではシューマンのリーダークライスG♯mを歌わせて頂く予定です。

この曲目には思い入れが強く、今年一月に大学院卒業試験で演奏し、また論文のテーマとしても取り上げました。自分なりに、この曲をかなり勉強したつもりではありますが、実際にドイツ語圏人々の前で演奏したことがないため、どんな

感じるのは「友愛」の始まりだと思う。これは「同情」ということである。

中国語には「感同身受」という熟語があり、日本語にも「身につまされる」という言葉がある。どちらも他人の苦しみ、悲しみなどをまるで自分の身に起こったことのように悲しく感じるのだ。しかし、「同情」ということは本当に可能だろうかかと私は疑っている。

「失意の胸へは／だれも踏み入ってはならない／自身が悩み苦しんだという／よほどの特権を持たずして

はー」。これは米国の女性詩人の詩である。しかし災厄に遭って、家、家族、友人を失った人々の悲しい姿を見て、テレビの前の私たちも心が痛くなったのはなぜだろうか。恐らく皆はこの身で災難を受ける悲痛さが分かっているから、だから私たちも悲しく感じて、お互いに励ましたい、お互いに支え合いたいと思うのではないか。

先日のフランスのパリで起こったテロ事件には驚いた。世界各国の人々と一緒に「Pray for Paris」と共に

私は「友愛」が必要であることをいっそう信じるようになった。民族や国家の違いはもろろん、そもそも各個人はそれぞれ別々の存在である。もし他者に對し、同情ができないと、友愛もできない。そして、人を殺すなどというとても信じられない事件が起こる。決して安定したとは言えない今の世界の中で、友愛は友人間の情愛だけではなく、もっと広い範囲で考えるべき言葉だと思う。



「世界を見て 日本を考え 自分を知った」

内閣府青年国際交流事業

事業に関するお問い合わせ先
内閣府 青年国際交流担当室
☎ 03-6257-1434（月～金 9:30～18:15）

▶ 内閣府ホームページ <http://www.cao.go.jp/koryu/>
▶ 最新情報 SNS から ▶ 内閣府青年国際交流担当 @cao_koryu

平成28年度 日本参加青年募集

内閣府青年国際交流事業

詳しくは内閣府HP <http://www.cao.go.jp/koryu/>
振るって応募してみよう！
飛び出せ！ 世界へ！

事業内容／応募資格(平成28年度)

事業名	国際青年育成 交流事業	日本・中国 青年親善交 流事業	日本・韓国 青年親善交 流事業	「東南アジア青年 の船」事業	次世代グローバル リーダー事業 「シップ・フォー・ ワールド・ユース・ リーダーズ」	地域課題対応 人材育成事業 「地域コアリーダー プログラム」
訪問国	ドミニカ共和国 ラオス リトアニア	中国	韓国	ベトナム・タイ シンガポール インドネシア	ニュージーランド フィジー	英国(高齢者関連) デンマーク(障害者関連) ドイツ(青少年関連)
実施時期 (期間)	9月9日 ～9月26日	8月30日 ～9月10日	8月28日 ～9月11日	10月26日 ～12月14日	平成29年1月25日 ～3月6日	10月9日 ～10月18日
	18日間	12日間	15日間	日本国内:9日間 船内・訪問国:41日間	陸上研修:7日間 船上研修:34日間	10日間
募集人員	各国14人	25人	25人	39人	120人	各国8人

時事川柳 服部迪夫 作

「時事川柳研究会」顧問
—写真展
友愛の枝葉拡げる「コンクール」
—重力波
アインさん舌の長さは本物だ
—高梨選手
コンビを気流に乗せた女子
ジャンプ
—SMAP分裂問題
華になるオンリーワンの五人組
—記録より記憶(斎藤雅樹)
鮮やかに殿堂入りの名選手
—大相撲
もう待てないモンゴル場所はいつできる
—醍醐味
三が日駅伝三昧タスキ掛け
—連覇達成
青学が異次元の走り見せける

機関紙『友愛』原稿募集

機関紙『友愛』に皆様のご投稿をお待ちいたしております。内容は、ボランティア活動の報告、地域の名物の紹介、季節のお便り等々、何でも結構です。ご自慢の写真も大歓迎です。皆様の『友愛』に奮ってご投稿ください。詳しくは事務局までお問い合わせください。

締切り：特に設けません。いつでもご投稿ください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願いいたします。

要領：手書き原稿・データ原稿・メールでの投稿何でも対応可能です。
写真：紙焼き（カラー・白黒）・デジカメデータどちらでも。
送り先：（財）日本友愛青年協会事務局 宛

◆申年は変化の大きい年と言われていますが、一、二月の自然や世界の変化は想定外。日本の天候も雪が降ったり初夏の暑さだったり、為替や株価と同様、千変万化の感じでした。また、世界の政治や経済も日々激しく変転し、先行きを示唆するオイルやマーケットも動転。人間は混乱から平和への糸口を求めているのに妙手が見えない。このまま推移したら世界はどうなるのか皆心配している。自然は常に繰り返している。厳しい冬の後には必ず春が来る。世界の諸緊張が硬直しないうちに溶融剤が散布されるよう祈念する。(K)

◆北京理工大学の学生さんから「友愛」感想文が届きました。まずビックリ、そして感動、時に涙、素晴らしい出来映えの作品ばかりです。審査員諸氏が、特に理事長が採点に悩んだのも頷けます。若い・学ぶ・素直・真摯・賢い等々羨ましくもあり、且つ感動的な言葉しか思い付きません。自分の側といえ、反省・後悔・私はこの歳の頃こんな素直ではなかった。もっと真面目に勉学に取り組めば良かった・と、情けない思いに駆られます。ここでめげている訳にはいきません。「我以外皆我師」の心境で、彼等から学び向上しよう、と、百遍くらい心に浮かんだ、毎日でした。人間いくつになっても成長出来るという言葉、呪文の様に唱えて。(も)

